

資料番号	RFS 耐震 0068
提出年月日	令和 4 年 1 月 27 日

「使用済燃料貯蔵事業変更許可申請に
係る新規制基準への適合確認に関するヒアリング」
提出図書リスト

リサイクル燃料貯蔵株式会社

【日時】

令和 4 年 1 月 27 日（木） 10：00～

【提出図書】

- (資料 1 標準応答スペクトルを考慮した評価の概要 (申請概要) について)
- ・資料 1-1 基準地震動の策定 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価)
 - ・資料 1-2 使用済燃料貯蔵施設の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価について (基準地震動 (S_s-B5) による地震力に対する安定性評価)
- (資料 2 許可後の新知見の反映について)
- ・資料 2-1 敷地周辺の地質・地質構造について (20 万分の 1 地質図幅「野辺地」(第 2 版)について)
 - ・資料 2-2 リサイクル燃料備蓄センターにおける津波評価方針の変更のうち、仮想的大規模津波の策定について (内閣府(2020)及び青森県(2021)に対する考察)
 - ・資料 2-3 火山影響評価 (日本の火山 (第 3 版) データベース更新内容の反映)
- ・資料 3 補足説明資料 添付書類四 「5. 地震」 抜粋

本日の説明事項

リサイクル燃料貯蔵株式会社

1. 基準地震動追加に伴う事項
 - a. 基準地震動 Ss-B5 の追加
 - 改正された審査ガイドに従って、標準応答スペクトルに基づく基準地震動を作成。
 - 新たな地震動は、既許可の基準地震動を一部周期帯で超過することから、基準地震動 Ss-B5 として追加。
 - b. 基準地震動の追加に伴う基礎地盤安定性評価
 - 基準地震動 Ss-B5 に対する基礎地盤安定性評価結果を追加。
 - 評価結果は、他の基準地震動による評価結果に比べて厳しい結果にはならない。
2. 最新の知見の反映に関する事項
 - a. 20 万分の 1 地質図幅「野辺地」に関する影響
 - 2021 年 3 月に、20 万分の 1 地質図幅「野辺地」（第 2 版、地質調査総合センター）が出版。
 - 図幅の内容を踏まえても、既許可の断層長さの評価結果及び地震動評価に変更はない。
 - b. 青森県津波想定の見直しに関する影響
 - 2020 年 4 月の内閣府の日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会の「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルの検討について（概要報告）」を公表。
 - これを受けて、2021 年 5 月に青森県海岸津波対策検討会が、内閣府の公表内容を踏まえた津波想定を公表。
 - 公表された敷地前面海域での津波高さは T.P. +13.4m であり、従前の T.P. +11.5m に比べ上昇した。
 - 上記の津波高さを踏まえても、仮想的大規模津波（津波高さ T.P. +23m）の想定を超えないことから、既許可の評価結果に影響はない。
 - c. 「日本の火山（第 3 版）」データベース更新の反映
 - 2021 年 6 月、「日本の火山（第 3 版）」データベース（地質調査総合センター）が更新。
 - 更新により、「八甲田黒森」と「八甲田八幡岳」の 2 火山が統合されて「八幡岳火山群」に見直し。
 - 火山の総数と分類（敷地に影響を及ぼしうる火山）の見直しが必要となるが、既許可の評価結果に影響はない。

以上